

# 障害者虐待防止と権利擁護 【新規採用時研修】

～「不適切ケア」の芽を摘むプロの視点～

作成者：6人家族パパの人生設計室

## 🚩 本日の研修ゴール

- ✓ 法律で定められた「5つの虐待」を正確に理解する
- ✓ 虐待の一步手前にある「不適切ケア（グレーゾーン）」に気づく
- ✓ 「通報義務」と「組織のルール」を知り、隠蔽しない

# 法律で定義された「5つの虐待類型」



## 身体的虐待

- ・ 殴る、蹴る、つねる
- ・ 無理やり食べさせる
- ・ 身体拘束（正当性なし）



## 性的虐待

- ・ わいせつな行為の強要
- ・ 不必要に裸にする
- ・ 性的な言葉をかける



## 心理的虐待

- ・ 暴言、無視、威圧的態度
- ・ 子供扱いする、嘲笑
- ・ 自尊心を傷つける



## 放棄・放置（ネグレクト）

- ・ 食事や水分を与えない（減らす）
- ・ 入浴させない、不潔なまま放置する
- ・ 必要な医療を受けさせない
- ・ 同僚の虐待を見て見ぬふりする



## 経済的虐待

- ・ 年金や賃金を渡さない
- ・ 本人の同意なく勝手に使う
- ・ 日常生活に必要な金銭を制限する

# 現場で最も怖い「グレーゾーン（不適切ケア）」

適切なケア

 不適切ケア（虐待の芽）

虐待

虐待はいきなり起きません。「これくらいなら...」という慣れから始まります。



子ども扱い

「〇〇ちゃん、ダメでしょー」  
（あだ名・タメ口）



後回し・無視

呼んでいるのに記録を優先し  
「後で！」と突き放す。



プライバシー配慮不足

トイレのドアを開けたまま介  
助。  
大声で排泄の話をする。



# プロならどうする？ 不適切ケアの書き換え

NG

「〇〇ちゃん、ご飯こぼしちゃダメでしょー」

(心理的虐待の芽：自尊心を傷つける)

OK

「〇〇さん、服が汚れちゃうのでエプロン使いませんか」

(対等な大人として接する・提案する)

NG

(忙しいから)「ちょっと待ってて！」と強い口調

(スピーチロック・ネグレクトの芽)

OK

「5分ほどお待ちいただけますか？後で必ず伺います」

(具体的な時間を提示・約束を守る)

NG

ノックせずいきなり居室に入る

(心理的虐待・プライバシー侵害)

OK

必ずノックし「失礼します」と声をかけてから入る

(自分(職員)の家ではないと認識する)

# 🔄 虐待はなぜ起きる？「孤立」のサイクル



🛑 ここで止める！

すぐに「交代（タイムアウト）」を要請

新人さんへの約束：「イライラするのは未熟だから」ではありません。

手が出そうになったら、その場を離れてSOSを出してください。

それは「逃げ」ではなく「プロの判断」です。

# 発見者の「通報義務」とフロー

1

## まずは施設内で報告

管理者・虐待防止マネージャーへ事実を報告する。



2

## 隠蔽される・対応しない場合は...

組織として動かない場合、直接「市町村の窓口」へ通報する義務があります。



## 守秘義務との関係・通報者保護

- 虐待通報は「守秘義務違反」にはなりません（虐待防止法が優先）。
- 通報したことを理由に、解雇などの不利益な扱いを受けることは法律で禁止されています。

## 🔍 【自己点検】 現場に出る前のチェック

☐

自分の家族がされて嫌な言葉遣いや介助を、利用者にしていませんか？

☐

利用者の前で、職員同士が私語をしたり、あだ名で呼び合ったりしていませんか？

☐

「ちょっと待って」などのスピーチロック（言葉の拘束）を安易に使っていませんか？

☐

利用者のスマホや金銭を、許可なく触ったり扱ったりしていませんか？

「誰かに見られても恥ずかしくない支援」が、プロの基準です。

## 本日のまとめ：プロとしての行動指針



虐待には「5つの種類」があることを理解する。



「ちゃん付け」「無視」「待たせる」は不適切ケア（虐待の入り口）。



イライラしたら一人で抱え込まず、すぐにSOS（交代）を出す。



虐待を見つけたら「通報」する義務がある（見て見ぬふりは同罪）。



私たちは利用者の「尊厳」と「人生」を支えるパートナーです。

誇りを持って、日々の支援にあたきましょう。